

大学との連絡会 2023

学生取材レポート 9月30日 土曜日

取材協力：東京都市大学 新聞会

2023年度の「保証人対象 大学との連絡会」が、9月2日(土)の地方7都市を皮切りに、北は札幌から南は沖縄まで、全国21カ所の会場で開催され、多くの保証人の皆様にお越しいただきました。最終日である9月30日(土)に行われた世田谷キャンパス、横浜キャンパスの様子を、東京都市大学新聞会の協力のもとご紹介します。



新棟完成へ！進化し続ける世田谷キャンパス

教育活動、単位取得や進路について細やかに説明

曇天に時折雨の混じる蒸し暑い一日でしたが、世田谷キャンパスには多くの保証人の皆様が来校し、会場となった各教室で熱心に耳を傾けていました。

午前10時から情報工学部、知識工学部、都市生活学部、人間科学部、午後1時30分からは理工学部、工学部、建築都市デザイン学部で、それぞれ学科(学部)説明会が行われました。

情報工学部知能情報工学科の全体説明会では、最初に挨拶に立った森博彦主任教授が、創立100周年(2029年)に向けた「東京都市大学キャンパス再整備事業」により誕生した新校舎、7号館と10号館を紹介した後、「理工系の学生には大学院進学を推奨したい。学部卒と院卒では社会人になってからのスタート地点が異なるので、選択肢として考えてほしい」と話しました。続いて教務委員 岡誠講師から単位の取得や出欠席について説明があり、「保証人から『子どもがきちんと大学に登校しているのか知りたい』との声を多くいただく。出席確認システムによりネットで確認できるので、活用してほしい」と周知しました。

保証人の大きな関心事である進路については、就職担当 穴田一講師が、「就職状況はかなり良好で、一人当たりの求人も多く、毎年就職希望者全員内定を得ています」と話した後、就職活動のポイントや大学院進学的重要性について説明しました。



世田谷キャンパス、連絡会に向かう保証人の方々



知能情報工学科の全体説明会。主任教授が学科の状況や今後の展望を説明

懇談会では保証人からコロナ禍に関する質問も

その後場所を移して行われた1年生の保証人向け懇談会では、クラス担任の桂卓成教授が、「1年前期終了時点で、約8割の学生は成績に問題ない。現段階で単位や出席が足りない学生についても単位取得が可能。大学に確認してほしい」と話しました。

また3年生向けの懇談会では、保証人から、「この学年はコロナ禍の特殊な環境で学生生活を送ってきた。他の学年と比べて違いがあるか」といった質問が出て、クラス担任の田中宏和教授が、「今年度の授業は完全対面式であり、研究発表でも学会に足を運ぶことができる。本学科の学生は素直で、個性がある」と話しました。

自然科学科の説明会では学科の特色を詳しく紹介

午後に行われた理工学部自然科学科の全体説明会では、橋本義武主任教授が、理学と工学が連携して教育を進めていることや、大学院に自然科学専攻が開設されたことなど、学科などの特色を紹介。教務委員 糸井充穂教授が学修の流れや評価、単位について説明し、学科の就職担当を務める中井洋史准教授は、自然科学科の過去数年度分の就職・進路状況について説明をおこない、特に「教員を目指す学生も毎年多いこと」「大学院に進学する学生は増加傾向にあること」を報告しました。また、飯島正徳教授は、「理系人材が不足している今、大学院進学はメリットがある」と補足しました。

世田谷キャンパスの各学部・学科とも、説明会、懇談会の後、希望者には個人面談を行い、この日の「保証人対象 大学との連絡会」を終えました。



自然科学科の学年別説明会・懇談会では、フィールドワークや実験を重視する、この学科ならではの特色が紹介されました